

令和2年度

第5回 奥州市立水沢中学校改築
基本構想及び基本計画検討委員会
会議録

令和2年8月31日

奥州市教育委員会

○ 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和2年8月31日(月) 午後6時
閉会 // 午後7時
開催場所 水沢中学校 会議室

○ 出席委員の氏名

佐藤孝守 委員長
千葉正文 副委員長
千葉和仁 委員
朝倉啓二 委員
佐々木竜哉 委員
高橋光緒 委員
深谷夕子 委員
三浦光章 委員
木村清且 委員

○ 説明のため出席した職員の職及び氏名

田面木茂樹教育長、千葉昌教育部長、佐藤利康学校教育課長、及川協一教育総務課長、佐藤茂利教育総務課長補佐、大沼慶太上席主任

- ・ オブザーバー出席者
都市整備部都市計画課 及川信主任技師
- ・ 計画策定支援受託者
(株)綜企画設計仙台支店、秋保祥氏、佐藤卓也氏

○ 次第進行

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員長挨拶
- 4 報告
前回会議録の確認
- 5 協議
基本構想及び基本計画案について
- 6 その他
- 7 閉会

○ 会議の概要

◎ 定足数 5 名に対し、現時点で出席者数は 9 名であり、委員会は成立する旨宣言。

1 開会

2 教育長挨拶

おばんでございます。本日は御多用中のところお集まりいただきありがとうございます。昨日までは大変な猛暑でしたが、雨が降り、ようやく過ごしやすい気候になってきたかと思えます。

この委員会は昨年 12 月に第 1 回を開催し、今日が 5 回目となります。今回の御検討いただいた内容を反映させ、検討委員会の最終案としてまとめてまいりたいものです。

この改築基本構想及び基本計画というものは、どのようなコンセプトで学校を造っていくかということですし、水沢の、街の中での中心校であります、風土、街づくり、そういった部分と合わせながら、子供達も地域の方々にも、作って良かったなと喜ばれるものになるようまとめてまいりたい。

一度造れば 50 年は使うこととなります。限られた時間ではありますが、そのため先を見越したような、生徒達が希望溢れる生活を送れるようなコンセプトをまとめていただきたいと思います。

3 委員長挨拶

おばんでございます。只今教育長さんがおっしゃられたとおりですが、涼しくなったこともあり、原点に返り、この会議室で窓を開け放っての開催となりました。

今回は第 5 回、最終の委員会となります。これまで委員の皆様には沢山の御意見を頂戴いたしました。これらは新しい水沢中学校の建築に活かされていくものと思えます。こうした意見を反映させ、この最終案まで取りまとめいただいた総企画設計の皆さんに感謝申し上げます。

これから、水沢中学校建設のための設計へと進んでいくこととなりますが、原点となるのはこの計画です。新しい中学校を作る基となる骨格となる計画に対し、様々な意見をいただいた委員皆様に改めて感謝申し上げます。

本日は前回いただいた御意見をまとめて、最終案的なものが出てきておりますので、それに沿いながら、御意見、御質問をいただければ、より良いものに仕上がるものと思えます。短時間で中身は濃く進めてまいりたいのでよろしく願いいたします。

4 報告

事務局より、資料 1 の前回議事録に基づき、これまでの経過について報告した。報告内容について質疑なし。

5 協議

事務局より、資料2に基づき説明すること、前回検討いただいた基本構想及び基本計画の案に対しいただいた意見等を踏まえ、修正・追加等の記載を行ったものを資料2として配布しており、詳細については、綜企画設計より、説明する旨述べた。

● 綜企画設計佐藤氏

前回からの修正については、大きく2点ある。

一つ目は、全体的な文章記述を、である調に統一したこと。

二つ目は、前回までの御意見を踏まえた加筆・修正したこと。

- ・ 11Pから16Pまでの部分、第1章の1-6、1-7に現状での学校の図面を添付し、モニュメントや記念品のイメージについて追加した。
- ・ 17P、アンケートに関する記述について、調査期間や対象等を記載した。
- ・ 22P、基本構想について
 - ① 基本方針1の4つ目として、木材利用についての記述を追加した。
 - ② 基本方針2の2つ目について、『国が進めるGIGAスクール構想等』の記述を追加し、文章を調整した。
 - ③ 基本方針2の7つ目について、十分な敷地の確保と校舎階数や体育館と武道場の配置や構造に配慮する旨、文章を修正した。
 - ④ 基本方針④の5つ目として、新型コロナウイルス等感染症対策に対応し、十分な換気とスペース確保に配慮する旨追加した。
 - ⑤ 38Pから39Pについて、今後の課題として、主に前回の委員会でいただいた意見を掲載した。

- 委員長 今回は最後の会議なので、最初から通して確認をしていきたい。何か気づいた点等あったらお話しいただきたい。

この後、1Pから、順に記載について確認を進めた。その中での意見等の要旨を記載する。

- 委員 文章の記載について、文章の書き出しの位置等を統一されたい。また、38P～39Pの『子供』の記載について『子ども』表記に統一されたい。

→ 事務局 御指摘いただいた文章の体裁について、行政文書に準じて整えたいこと及び『子ども』表記に統一すること。

- 教育長 6Pから7Pまでの水沢中学校の特色及びまなびフェストについて、最新のものに確認修正されたいこと。

- 委員 確認だが、配置計画案については、一つに絞らないのか。

→ 事務局 提示した複数案に対しいただいた御意見を38～39Pに『今後の課題』として記載し、今後設計を進めるうえでその意見を方向性として加味し検討・反映していくものである。

- 委員 今後の進め方についてだが、改築に関し、職員間でも関心が高まっている。今後学校づくりを進めていく中で、参画する仕組みについて考慮されたい。

→ 事務局 先行整備事例においても、事業進捗の各場面で検討を要する内容について、ワーキンググループのような形で、職員あるいは地域の

方々等にお集まりいただき検討いただく形を取ってきたと承知している。今回も同様な考えで進めていきたいもの。

- 委員 敷地にあるイチョウの木について、初代校長が東京大学に行き、並木となっているイチョウの種をもらってきて、それを農業高校の先生に育ててもらい植えたものがこのイチョウである。

日本の学問の先頭に立つ東京大学の気概を、生徒達に植えつけたいという願いから、校長の高橋萬右エ門さんがやったと聞いたことがある。

こうした由来のあるものを改築で失ってしまうのは惜しい、何とか残せないものか。

南側のポプラ並木は、今となっては鳥が群がっていて、残すには大変だとは承知しているが、イチョウの木はそういった難点がなく大丈夫ではないかと考えるもの。

- 委員長 イチョウの木の由来については、何度も耳にしたことがあるもの。この取り扱いについては、教育委員会として今後設計を進めていく中で、取扱いを検討いただきたい。

- 委員 39Pの災害対応の部分について、災害対応のために予算が膨らんでしまうことは適当ではないと考える。災害対応のために学校が使われることはほとんどないことから、日常使用する教育施設としての部分に重点を置くべきと考える。

- 委員長 災害対応については、『できる範囲で』という趣旨と受け止めた。

- 委員 あまり水沢のことに詳しくはないのだが、市内の中心校ということで、水沢を代表するような先人、偉人との関わり合い、伊達藩の九曜紋など、地域の歴史を象徴するような物事を学び後世に伝えていくのが学校の役割と考える。

ところで、今 I L C が 2030 年着工ということで、いろいろな動きがあり、5万~10万人の外国人が岩手県を中心に定住すると見込まれている。

そうすると、この水沢の歴史・文化をきちっと子供達に教え次の世代に繋げていくことが重要となる。水沢の中心校ということもあるので、国際化に備えた教育をコンセプトに掲げてはどうかと考える。

特にも後藤新平のように、世界で活躍した先人の足跡の紹介ができるよう踏み込んだ形でコンセプトを整理してはどうかとも考える。

現在の内容では、どこの学校でも当てはまるものだが、もっと水沢らしさ、特色を整理して作られたら良いのではないか。

- 委員長 水沢の歴史と文化、そして水沢の三偉人に共通する『先見の明』といった理念を、校舎建築にどう反映させていくかという話と受け止めた。これらについても、今後の各論の部分で検討するもの。

- 教育長 様々な由来、歴史を紐解く端緒となる扁額などが沢山ある。こうしたものが見られる資料スペース的なものがあるのもいい。また、多目的スペースを三偉人や水沢の歴史や文化にちなんだものにするということでも歴史や文化を学び引き継いでいく手助けになるのではないかなど、お話を聞いていて感じた。

国際化、ILCに関することも然り。ただ、あれこれ盛り込もうとすると計画としてもコスト面でも膨れてしまうが、この場合は検討の場なので、御意見は出すだけ出してもらって、後で選択していくということになる。

- 教育長 ICT教育環境整備の大きく進んでいく状況である。タブレット型PCが生徒1人当たり1台使えるようになる時代、これまでのコンピュータ教室の役割を真摯に検討する必要がある。ならばそこを国際交流スペースとし、現在奥州市が進めようとしているオーストラリアとの交流に活用するとか、生徒が学んだこと、歴史や文化を発信する拠点とするなども考えられる。

こうしたことは後で検討する話だと考えるが、他ではやっていないこと、水沢ならではのことに取り組むことが、生徒達の誇り、自己肯定感や郷土愛を育むことにつながるのではと考える。

- 委員長 以前設置し、他施設に移設した望遠鏡の件もあるが、何をどう取り上げて、学校建築に表現していくか、整備し活用するかは、生徒達や地域の人といつかの機会で話し合っただけで検討していけば良いと考えられるので、そうしたことができるよう基本計画に一言盛り込んでいただければと考える。

- 委員 襟章に『Z』の意匠があしらわれている。この意味がきちんと説明できる人が少ない。年齢に応じ、水沢と『Z』の関係が学べるような資料があればよいと考える。

- 委員 気になる点として、学校敷地東側の市有地、市営(南丑沢)住宅がどうなるかによって、この計画にも関わってくるものと受け止めている。校舎の建築着手まで2年あるが、それまでに市営住宅がどうなるか目途が立つのか。この案ではその辺りの内容が触れられていないようなので、見える形で記載したほうが良いと感じた。

- 委員長 学校東側の市営南丑沢住宅敷地については、これまでの委員会でも話題となってきたところであり、『市営南丑沢住宅敷地の活用を希望する』という意見を計画に掲載することとする。

- 委員長 以前の会議で、工期短縮の希望についても意見が出たところである。

- 委員長 さて、これまで様々な意見をいただき議論してきた。小さな部分の手直しはあろうが、大きな部分としてはまとめられたものと捉えるがよろしいか。(委員から異議なし)

では協議についてはこれで一区切りとさせていただきます。

本件については、本日委員皆様からいただいた御意見等もあったので、字句修正も含めチェックのうえ、検討委員会としての最終案とすることにしたい。ただし、委員会としては今回が最後なので、私と事務局とで最後の確認をして最終案とすることで、確認については委員長に一任いただきたいがよろしいか。(委員から異議なし)

以上で本日準備された議題は終了としたい。円滑な進行への御協力に感謝申し上げます。

- 事務局 昨年度 12 月から委員会を立ち上げて以来、9 箇月にわたり御検討をいただいた。この基本構想、基本計画が、これから基本設計、実施設計を行っていく土台となる。これまでの御協力に感謝申し上げます。

- 事務局 事務連絡として、今後のスケジュールをお知らせする。
今日の委員会で出た意見等を反映させたものを委員長と事務局で確認のうえ、委員会としての最終案とすること。
9 月の下旬に教育委員会の定例会が予定されていることから、最終案の内容を報告したうえで、計画案の確定とさせていただく。
委員皆様には、教育委員会に報告し確定した計画を、改めてお届けする形で報告させていただきたい。